

一日一步新聞

農産物の売り上げ回復

JAいわき市 新鮮やさい館 安全・安心対策を推進

いわき市平谷川瀬にあるJAいわき市の農産物直売所「新鮮やさい館」谷川瀬店は、東日本大震災と東京電力福島第一原発事故による風評被害で売り上げが落ちてしまっ

た。しかし、取れたての農産物販売にこだわりながら、放射線量を毎日測定するなどの努力を続けている。震災から3年5カ月近くたった今、売り上げは震災前の約9割まで戻った。お客さんにさ

らに親しまれる店になるよう、安全・安心対策に力を入れる。新鮮やさい館は市内に谷川瀬店、平窪店、勿来店がある。谷川瀬店は2004(平成16)年4月にオープンした。売り上げはずっと順調に伸びていたが、2011(平成23)年3月の震災で、大きく落ち込んだ。風評被害が深刻で、地元の農産物は売れなくなった。生産している農



谷川瀬店内で野菜を並べる(右から)斎藤さん、小野さん、皆川さん

風評被害対策は？

皆川館長に聞く

JAいわき市の農産物直売所「新鮮やさい館」の館長、皆川八三さんに、農産物の風評被害対策などについて聞いた。

「野菜は何種類ぐらいい販売していますか。皆川 常に30種類ぐらいい販売しています。うち、トマトやナス、キュウリなどです。ジャガイモ、タマネギなども人気です。震災と原発事故による風評被害は、皆川 震災前は売り上げが順調に伸びてい



ました。震災後はガクンと落ちました。その後は徐々に回復し、今は9割まで戻っています。安全・安心対策はどうですか。皆川 毎日、放射能検査を受けて大丈夫な農産物だけを販売しています。新鮮さも重要です。皆川 その日の朝収穫したものを主に、前日でも午後3時以降に取れたものに限り販売しています。(石川巧弥・飯高宏規)

取材で訪れた日も、従業員の斎藤幸江さん、小野也美さんが笑顔で元気にあいさつをしてくださいました。館長の皆川八三さん(63)は、「いわき産の野菜や果物は安全・安心でおいしいと、市民に親しまれるよう、生産農家と協力し、さらに品そろえを増やしていきたい」と話している。(一条ひかり・村上莉花)

被災者元気づける

みんぶく 支援に全力

いわき市のNPO法人3・11被災者を支援するいわき連絡協議会(みんぶく)は、東日本大震災と東京電力第一原発事故で被害を受けた人たちの支援活動を幅広く実施している。多くの人の協力も募っている。

協議会は震災から1年3カ月後の2012(平成24)年6月に設立した。理事・事務局長の赤池孝

行さん(58)によると、真の復興を目指すには支援活動が最重要と考え、協議会を立ち上げた。設立後、避難所での支援などに力を入れた。被災者らに衣服や食べ物などの提供も行った。仮設住宅に住む人たちの自治会をつくる支援もした。被災者のための交流イベントを開いたり、悩みなどを聞いたりして元気づ

けている。支援に協力してくれる団体などの「仲介役」として、さまざまな活動をして



会報「一歩一報」の封筒詰めをする(右から)赤池さん、横田さん、大内さん

会報を毎月発行 読者から反響も

協議会は被災者の生活

に役立つ情報を掲載した会報「一歩一報」を、いわき市や双葉郡などの被災者向けに毎月、1万7000部発行している。読者からの反響も寄せられるようになり、「読者コーナー」を新たに設ける予定だ。事務局を取材で訪れた日、赤池さんはスタッフの横田文枝さん、大内洋平さんと一緒に、8月号の封筒詰め作業をしていた。協議会の愛称は「みんぶく」から言葉を取り、「みんぶく」とした。被災者に親しまれている。キャラクターは「ぶくぶく」で、名前の頭文字の「P」と福島県の形をモチーフにしている。(吉田直・赤井朋貴)



私たちが編集しました

- (三阪中) 直(草野小)
- (錦小) 田(好間一小)
- (小名浜二小) 上(小宮小)
- (柴宮小) 村(ひかり)
- (宏規) 一条(高川)
- (巧) 飯(石)
- (朋) 赤(井)



「一歩一報」8月号